

地方独立行政法人市立大津市民病院
令和2年度第2四半期報告書

令和2年10月23日報告 地方独立行政法人市立大津市民病院

令和2年12月 7日確認 大 津 市

目 次

I 全体的な分析・確認結果（法人の自己分析と市の確認結果）

- 1 年度計画に掲げる目標指標に関する目標を達成するための取組
- 2 事業年度における四半期ごとの財務情報等に関する目標を達成するための取組

II 項目別での分析・確認結果（法人の自己分析と市の確認結果）

- 1 年度計画に掲げる目標指標に関する自己分析・確認結果まとめ
- 2 事業年度における四半期ごとの財務情報等に関する自己分析・確認結果まとめ
 - (1) 年度計画で掲げる収支計画のうち次に掲げる区分の金額と進捗状況
 - (2) 事業年度における四半期ごとの財務情報のうち資金繰り等に関すること
 - (3) 事業年度における四半期ごとのその他の情報のうち職員体制等に関すること
 - (4) その他、法人経営において特筆すべきこと

I 全体的な分析・確認結果（法人の自己分析と市の確認結果）

1 年度計画に掲げる目標指標に関する目標を達成するための取組

<p>〈法人の自己分析〉</p> <p>第2四半期は、新型コロナウイルス感染症の影響から回復傾向にあるものの、引き続き感染症指定医療機関としての使命を果たしながら、目標と向き合う非常に厳しい環境下での病院運営となった。7月より第2波感染症拡大期への対策として来院者トリアージを行うなど院内感染の防止を徹底しながら、新型コロナウイルス感染症に対して、必要な病床の確保と適切な看護配置を随時行った。新型コロナウイルス感染症対応による空床確保と、受診控えによる減収を回復させるため、地域医療機関への積極的に訪問したことで、対第1四半期から153%の紹介患者数を獲得した。医業収益については計画達成ができていないが、内科系（内科、消化器内科、呼吸器内科、脳神経内科）においては対前年度同期比147百万円の増収となっており、心臓血管外科、循環器内科についてもコロナ禍からの回復傾向と前年度比での成長傾向が見られている。また、外来収益については、受診控えによる軽症患者の減少と化学療法件数の増加などにより外来単価が上昇し、外来患者数が減少している中で目標達成をしたが、その他多くの項目においては四半期目標の達成には至らなかった。</p> <p>上半期の目標達成状況についても、第1四半期の感染症拡大による減収の影響が非常に大きく、目標指標については6項目、収支計画については費用の材料費、光熱水費、修繕費についてのみの計画達成に留まった。</p> <p>また、“市民”病院として、市民とともに、地域とともに歩んでいくという強い決意とともに、全職員が市民の命と地域医療を守る責務を一身となって果たせるよう、8月より病院理念を新たに設定した。</p> <p>年度目標達成に向けての今後の取り組みとして、現在感染症ER棟の建設を開始しており、12月の稼動開始を目指している。これにより、感染拡大期でも通常救急医療提供体制を維持することで安全で安心な重症患者の受け入れが可能となる。さらに、入退院センター機能の順次拡大も現在調整を進めており、機能拡大による病床利用率の改善を行う予定である。これらの機能強化により、第1四半期での感染症拡大期の減収を可能な限り抑制し、収益の確保に努める。</p>	<p>〈市の確認結果〉</p> <p>■第2四半期の総評として年度計画の達成状況は、新型コロナウイルス感染症の影響で判断できないが、年度計画に掲げる多くの指標において第2四半期の目標値を下回っている。</p> <p>■新型コロナウイルス感染症の対応では、第1四半期に引き続き、公立病院であり、感染症指定医療機関としての責任を職員全員が認識し、適正な医療提供に取り組んでいることを評価する。</p> <p>■地域医療機関への訪問を強化することで、第2四半期は患者数が回復してきており、手術件数も増加するなど、収益改善のための取組を進めていることも評価できる。</p> <p>■上半期を通じて見ると、患者数の減少の影響は大きく、収益が前年度比で約10億円減少し、厳しい経営環境であることには変わりはない。</p> <p>■年度後半に予測されるインフルエンザとの同時流行も想定した一層の備えと、収支改善につながる地道な取組を進めること。</p>
---	---

2 事業年度における四半期ごとの財務情報等に関する目標を達成するための取組

<p>〈法人の自己分析〉</p> <p>財務情報の目標達成に向けて、第2四半期は前年同期比および計画比で厳しい状況となっている。新型コロナウイルス感染症による影響で医業収益は完全には回復しておらず、前年同期比で7.6%の減収となっている。第1四半期が前年同期比で25.8%の減収であったことから回復傾向ではあるものの、依然非常に厳しい状況となっている。</p> <p>資金面では、第2四半期末での現預金保有状況としては2,247百万円で、今後の運営費負担金の入金を踏まえた年度末資金残高は1,697百万円となる見込みである。同感染症による収入の減少に対し、下期についても補助金が入金されることが予想されるが今年度限りの特別措置であることから、新型コロナウイルス感染症対応による収益減少を最小限に抑えるための設備および組織体制を整備することで収益の確保を図る。</p>	<p>〈市の確認結果〉</p> <p>■財務情報等に関する目標達成状況は、新型コロナウイルス感染症の影響で判断できないが、損益ベースで年度目標に対して乖離しており、前年同期比でも下振れしている。</p> <p>■第2四半期の経常損益（負担金除く）は△599百万円だが、第1四半期（△920百万円）より改善している。その要因は患者数の回復による収益改善であるが、コロナ禍において予断を許さない状況である。</p> <p>■資金面では、県からの補助金収入により、やや安定したと判断できるが、収益改善が見通せないで引き続き留意すること。</p>
---	---

II 項目別での分析・確認結果（法人の自己分析と市の確認結果）

1 年度計画に掲げる目標指標に関する自己分析・確認結果まとめ（目標指標の実績及び達成状況は次ページ及び別紙の「令和2年度の第2四半期業務実績に関する小項目評価における指標一覧」を参照）

<p>〈法人の自己分析〉</p> <p>第2四半期は、目標達成した指標が8項目（上半期としては6項目）のみであった。入院及び外来診療単価において目標を達成し、化学療法件数についても新型コロナウイルス感染症の影響で4月5月と減少したものの引き続き目標を達成した。紹介率及び逆紹介率についてはこれまでと同様に高い水準を維持し目標を達成しているが、ともに一般患者受け入れが減少したことによる上昇分も含まれている。また、紹介患者の確保と冬期の感染症再拡大期に訪問件数が落ち込むことを予測し、小康状況となったところで診療所訪問を積極的に実施した（対目標163.2%）。その他項目においては目標未達となっており、感染症病床の確保による入院体制の縮小、受診控えが発生したことで入院および外来患者数が第2四半期前年同期比約8%減少となっており、第1四半期の前年同期比約28%減少からは回復傾向にあるものの、依然影響が大きく、各指標達成が非常に困難なものとなっている。</p> <p>新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行に備え、感染症ER棟の建設を開始し、通常救急診療の維持と安全安心な受診環境の整備を行うことで、適切な受診を促進し、安定した医療提供体制の整備を図る。</p>	<p>〈市の確認結果〉</p> <p>■第2四半期で目標を達成した指標が8つであり、第1四半期の4つから増加している（上半期としては6項目）。</p> <p>■コロナ禍において救急搬送入院患者数が目標達成しており、救急患者を積極的に受け入れる体制が整ったことは評価できる。</p> <p>■患者数の減少により、入院診療単価、外来診療単価が上昇し、平均在院日数が延びる傾向にある。日帰り入院（手術）の減少による影響など、その要因を丁寧に分析し、今後の推移を見極める必要がある。</p>
---	---

指標 No.	大 項目	分析・検証する小項目及び目標指標	H29 実績	H30 実績	R01 実績	R01 (4-9月) 実績	R02 目標	R02 見込 (4-9月) [A]	R02 実績 (4-9月) [B]	計画増減 [B-A]	達成状況 [B/A]	達成 ☆	備考 「※」は、見込みは目標の 2/4 (小数点以下があると きは切捨て)
		第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上 に関する目標を達成するためとるべき措置											
		1 市民病院としての役割											
		(1) 5 疾病に対する医療の提供											
1		がん手術件数	603 件	629 件	563 件	281 件	650 件	325 件	244 件	△81 件	75.1%	↑	※
2		化学療法件数	2,118 件	2,769 件	2,037 件	1,049 件	1,900 件	950 件	1,150 件	200 件	121.1%	↑☆	※
3		放射線治療件数	110 件	101 件	112 件	60 件	120 件	60 件	46 件	△14 件	76.7%	↑	※
4		脳外科手術件数	251 件	275 件	289 件	162 件	333 件	166 件	71 件	△95 件	42.8%	↑	※
5		P C I 実施件数	184 件	151 件	144 件	73 件	213 件	106 件	53 件	△53 件	50.0%	↑	※
		(2) 4 事業に対する医療の確保											
6		救急搬送受入件数	4,097 件	3,915 件	3,481 件	1,744 件	4,100 件	2,050 件	1,320 件	△730 件	64.4%	↑	※
7		救急搬送入院患者数	1,457 件	1,413 人	1,358 件	650 人	1,450 人	725 人	614 人	△111 人	84.7%	↑	※
8		救急ストップ時間	317 時間	436 時間	63 時間	12 時間	0 時間	0 時間	188 時間	△188 時間	-	↓	
9		救急搬送比率	25.2%	24.3%	21.4%	21.2%	27.5%	27.5%	18.4%	△9.1 P	66.9%	↑	
10		救急入院患者数	2,886 人	2,778 人	2,551 人	1,274 人	3,070 人	1,535 人	1,104 人	△431 人	71.9%	↑	※
11		小児科入院患者数	3,216 人	2,748 人	2,383 人	1,298 人	2,647 人	1,323 人	401 人	△922 人	30.3%	↑	※
12		小児科救急受入件数	2,304 件	2,048 件	1,919 件	944 件	2,400 件	1,200 件	309 件	△891 件	25.8%	↑	※
		(3) 感染症への対応											
		(4) 予防医療の提供											
13		人間ドック受診者数	3,452 人	3,442 人	3,303 人	1,657 人	3,300 人	1,650 人	0 人	△1,650 人	0%	↑	※
		2 地域の病院、診療所等との機能分化及び連携強化											
		(1) 地域医療支援病院としての役割											
14		紹介率	54.0%	65.2%	71.5%	69.0%	60.0%	60.0%	67.0%	7.0 P	111.7%	↑☆	
15		逆紹介率	86.2%	94.4%	104.9%	101.8%	80.0%	80.0%	97.7%	17.7 P	122.1%	↑☆	
16		地域医療機関訪問回数	316 回	329 回	327 回	128 回	250 回	125 回	204 回	79 回	163.2%	↑☆	※
		(2) 地域での病院機能とその役割											
		(3) 在宅医療・介護との連携強化											
		(4) 関係機関との連携強化											
		3 市民・患者への医療サービス											
		(1) 市民・患者の求める医療サービスの提供											
		(2) 職員の接遇の質の向上											
		4 医療の質の向上											
		(1) 医療の安全の徹底											
		(2) 診療データ分析による医療の質と効率性の標準化											
		(3) セカンドオピニオンの推進											
		(4) 市民への医療の質に関する情報発信											

※↑：100%以上または目標値以上を目指す。 ↓：100%以下または目標値以下を目指す。

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとすべき措置													
	1	経営の効率化											
	2	管理体制の強化											
		(1) 経営体制の強化										定性	
		(2) 内部統制の強化										定性	
		(3) コンプライアンスの徹底										定性	
	3	優れた人材の確保と意識改革											
		(1) 法人職員の確保										定性	
		(2) 職員の意識改革とモチベーションの向上										定性	
		(3) 研修体制の強化										定性	
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとすべき措置													
	1	単年度資金収支ゼロ以上並びに経常収支比率及び医業収支比率100パーセント以上を達成するために講じる施策											
17		医業収支比率 ※1	93.6%	99.9%	97.1%	96.5%	100%以上	100%以上	82.1%	△17.9P	82.1%	↑	半期ごと確認指標
18		経常収支比率 ※2	90.0%	102.7%	100.4%	105.1%	100%以上	100%以上	87.1%	△12.9P	87.1%	↑	半期ごと確認指標
		(1) 収入及び収益の向上策											
19		入院診療単価	57,954円	59,053円	58,001円	58,233円	58,500円	58,500円	58,371円	△129円	99.8%	↑	
20		外来診療単価	13,997円	15,294円	15,312円	15,045円	12,000円	12,000円	16,103円	4,103円	134.2%	↑☆	
21		手術件数	3,888件	3,635件	3,674件	1,967件	4,570件	2,285件	1,170件	△1,115件	51.2%	↑	※
22		病床稼働率	88.4%	87.9%	85.0%	84.2%	82.0%	82.0%	70.6%	△11.4P	86.1%	↑	
23		入院患者数	126,868人	126,084人	120,478人	60,000人	133,225人	66,612人	50,718人	△15,894人	76.1%	↑	※
24		外来患者数	218,401人	210,287人	198,409人	101,819人	228,420人	114,210人	81,278人	△32,932人	71.2%	↑	※
25		平均在院日数	12.6日	12.6日	13.1日	12.7日	11.0日	11.0日	14.4日	3.4日	130.9%	↓	
26		DPCⅡ期間以内患者割合	64.5%	58.7%	57.9%	59.1%	70.0%	70.0%	53.9%	△16.1P	77.0%	↑	
27		新入院患者数	9,879人	9,293人	8,533人	4,365人	10,952人	5,476人	3,317人	△2,159人	60.6%	↑	※
28		ICU稼働率	114.6%	114.4%	107.7%	104.7%	100%以上	100%以上	97.1%	△2.9P	97.1%	↑	
		(2) 支出及び費用の削減策											
29		人件費比率(職員給与費比率) ※3	57.7%	54.7%	57.7%	57.8%	55.0%以下	55.0%以下	70.7%	△15.7P	128.5%	↓	半期ごと確認指標
30		材料費比率 ※4	22.9%	23.0%	22.9%	23.1%	20.0%	20.0%	24.3%	△4.3P	121.5%	↓	半期ごと確認指標
31		後発医薬品指数	89.3%	91.6%	94.0%	92.9%	80%以上	80%以上	93.3%	13.3%	116.6%	↑☆	半期ごと確認指標
32		委託費比率 ※5	11.0%	11.7%	12.1%	12.1%	11.0%	11.0%	15.6%	△4.6P	141.8%	↓	半期ごと確認指標
	2	運営費負担金											
	3	計画期間内の収支見通し											
第5 その他業務運営に関する目標を達成するためとすべき措置													
		(1) 津市民病院附属看護専門学校の在り方について											令和元年度末閉校
		(2) 介護老人保健施設ケアセンターおおつの在り方について											平成29年度末事業廃止

※1 算出根拠 医業収益/医業費用

※2 算出根拠 (営業収益+営業外収益) / (営業費用+営業外費用)

※3 算出根拠 医業費用の給与費(退職給付費用除く) / 医業収益

※4 算出根拠 材料費/医業収益

※5 算出根拠 医業費用及び一般管理費の委託費/医業収益

2 事業年度における四半期ごとの財務情報等に関する自己分析・確認結果まとめ

(1) 年度計画で掲げる収支計画のうち次に掲げる区分の金額と進捗状況(金額は百万円、達成状況は「○」が達成、「×」が未達成。「↑」又は「↓」は達成の方向)

No.	主な項目	R01年度実績※1	R02年度計画目標(A)	第2四半期(7-9月)目標(B)	第2四半期(7-9月)実績(C)	達成状況(C/B)損益(C-B)	R01年度(4-9月)実績	2/4四半期(4-9月)目標(D)	2/4四半期(4-9月)実績(E)	達成状況(E/D)	年度実績見込み[F]	達成見込み状況[F/A]	備考
1	医業収益のうち入院収益	6,926	7,794	1,948	1,628	↑× 83.6%	3,401	3,897	2,872	↑× 73.7%	-	↑ 000.0%	
2	医業収益のうち外来収益	3,051	2,741	685	688	↑○ 100.4%	1,534	1,370	1,300	↑× 94.9%	-	↑ 000.0%	
3	医業収益のうちNo.1,2以外	398	405	101	44	↑× 43.6%	197	202	81	↑× 40.1%	-	↑ 000.0%	
4	医業費用のうち給与費	6,209	6,138	1,534	1,562	↓× 101.8%	3,118	3,069	3,120	↓× 101.7%	-	↓ 000.0%	
5	医業費用のうち材料費	2,373	2,103	525	536	↓× 102.1%	1,202	1,051	1,034	↓○ 98.4%	-	↓ 000.0%	
6	医業費用のうち経費(光熱水費)	224	254	63	60	↓○ 95.2%	120	127	108	↓○ 85.0%	-	↓ 000.0%	
7	医業費用のうち経費(修繕費)	37	38	9	5	↓○ 55.6%	15	19	10	↓○ 52.6%	-	↓ 000.0%	
8	医業費用のうち経費(委託料)	777	835	208	257	↓× 123.6%	385	417	417	↓× 100.0%	-	↓ 000.0%	
9	医業費用のうち経費(No.6~8以外)	280	127	31	64	↓× 206.5%	143	63	163	↓× 258.7%	-	↓ 000.0%	
10	医業費用のうち減価償却費	773	590	147	163	↓× 110.9%	382	295	325	↓× 110.2%	-	↓ 000.0%	
11	医業収益※2	10,375	10,940	2,735	2,359	↑× 86.3%	5,132	5,470	4,252	↑× 77.7%	-	↑ 000.0%	
12	医業費用※3	10,691	10,109	2,527	2,648	↓× 104.8%	5,375	5,054	5,182	↓× 102.5%	-	↓ 000.0%	
13	医業損益(No.11-No.12)	△316	831	207	△289	↑× △496	△243	415	△930	↑× △1,345	-	↑ 000.0%	
14	営業損益(負担金含む)	421	1,654	413	△120	↑× △533	161	827	△585	↑× △1,412	-	↑ 000.0%	
15	営業損益(負担金除く)	△1,087	128	32	△473	↑× △505	△651	64	△1,292	↑× △1,356	-	↑ 000.0%	
16	経常損益(負担金含む)	54	1,914	478	△220	↑× △698	△8	957	△761	↑× △1,718	-	↑ 000.0%	
17	経常損益(負担金除く)	△1,571	△379	△94	△599	↑× △505	△878	△189	△1,519	↑× △1,330	-	↑ 000.0%	

〈法人の自己分析〉

第2四半期は、収支計画における達成項目は3項目であった。回復傾向にはあるものの引き続き新型コロナウイルス感染症に伴う受診控えの影響を受け、目標達成が非常に困難な状況であった。収益では、入院その他収益が目標未達となり、外来収益については化学療法件数の増加と脳神経内科の難病治療による高額薬剤使用により目標を達成した。入院収益については新型コロナウイルス感染症対応のための空床確保による患者数の減少により減収となっており、その他収益については健診センターが完全に再開できておらず、その稼働縮小の影響が大きい。費用では感染症対策医療材料の購入や高額薬剤の使用により材料費が上昇し、医業費用の光熱水費、修繕費は目標達成となった。これにより上半期の目標達成については、医業収益が上半期については前年同期比82.9%となっており、第1四半期からの達成状況が収益で改善、費用で悪化している。

新型コロナウイルス感染症による第1四半期での減収の大きな要因として通常救急診療停止があるが、冬期のインフルエンザとの同時流行による発熱患者の増加により、再度その減収を発生させないために、感染症ER棟の建設を開始し12月の稼働開始を目指している。

〈市の確認結果〉

■上半期は減収減益で、収支バランスも大幅に悪化している。原因は新型コロナウイルス感染症の影響で、収益は患者数の減少により大きく減収となるものの、費用はその対応により抑制できないからである。なお、この影響に伴う経常損益の大幅減益は、臨時利益に計上している国の支援策に沿った県からの補助金によって補填されるが、これを加味しても計画値達成には至らない。

■第2四半期は外来収益は目標値を達成したが、ほとんどの指標で年度計画に掲げる目標未達となった。

■第2四半期は第1四半期よりも損益は回復傾向にあったが、対前年同期、対計画値との乖離は大きい。今後予測されるインフルエンザの流行に対応しながら、健診センターの再開など、収益改善施策を着実に推進すること。

※1 病院事業のみ

※2 医業収益の内訳(入院収益+外来収益)

※3 医業費用の内訳(給与費+材料費+経費)

(2) 事業年度における四半期ごとの財務情報のうち資金繰り等に関すること

<p>〈資金繰りの状況等〉</p> <p>第2四半期末での現預金保有状況は、9月末に滋賀県より新型コロナウイルス感染症入院病床確保支援事業費補助金として1,044百万円が入金され、2,247百万円であった。うち短期借入金無し(前年同期短期借入金1,954百万円)。短期借入金を除く実質の資金は、期首から+365百万円、前年同期比で+4,153百万円である。</p> <p>12月の賞与支払い時、3月の移行前地方債の償還時に大津市から運営費負担金が入金(12月566百万円、3月565百万円)され、年度末資金残高は1,697百万円(期首から△185百万円)となる見込みである。</p> <p>令和2年度資金増減見込み(第2四半期末現在) (単位:百万円)</p> <p>中期計画: +1,728 → △185 (△1,913)</p> <p>※主な要因</p> <p>入院収益</p> <p>計画 7,794 → 見込 6,247 (△1,547)</p> <p>(令和元年度実績: 7,098 (△851))</p> <p>外来収益</p> <p>計画 2,741 → 見込 2,673 (△68)</p> <p>(令和元年度実績: 3,085 (△412))</p> <p>その他医業</p> <p>計画 405 → 見込 174 (△231)</p> <p>令和元年度実績の()内は令和2年度見込みとの差</p>	<p>〈法人の自己分析〉</p> <p>第2四半期末での現預金保有状況は、資金収支で年度計画の想定より1,100百万円減少している。その主な要因は医業収入が約1,000百万円減少したからである。9月末に滋賀県より新型コロナウイルス感染症入院病床確保支援事業費補助金として1,044百万円が入金されたが、今後も新型コロナウイルスによる影響が続くことを想定すると資金が期首から185百万円減少し、年度末資金残高1,697百万円となることが見込まれる。</p> <p>下期も現在の年度末見込み資金残高に反映していない新型コロナウイルス関連の補助金が入金されることが考えられるが、今年度限りの特別要素ととらえ、感染症対応による収益減を最小限に抑えるための設備、組織体制を整備していく。</p>	<p>〈市の確認結果〉</p> <p>■現金保有状況は、滋賀県から新型コロナウイルス感染症入院病床確保支援事業費補助金が措置されたことで大幅な悪化はなく、年度末見込みにおいても、減少は見込まれるが危機的な状況ではない。</p> <p>■今後も厳しい経営状況が見込まれることから、資金需要を的確に捉え、現預金の確保に努めること。</p>
---	--	---

(3) 事業年度における四半期ごとのその他の情報のうち職員体制等に関すること

<p>〈職員体制等〉</p> <p>令和2年度第2四半期末での職員体制は813人で、年度当初比で3人の減員(退職22人、採用19人)、前年度比では10人の増員である。なお、増員の主な要素は、救急診療科、消化器内科等の医師確保によるもの。</p>	<p>〈法人の自己分析〉</p> <p>新型コロナ感染症対応による負担軽減のため、外来及び救急診療に係る部署の組織改編を行い、看護配置について流動的に対応した。今後も診療報酬制度も見極め、法人として最適な職員体制の確保のため、途中採用を含め、引き続き職員体制の適正管理に努める。</p> <p>また、次期中期計画期間内で開始予定の待遇改善・生産能力向上・正規職員転換実現プランについて着手した。</p>	<p>〈市の確認結果〉</p> <p>■職員が高い危機意識を持って新型コロナウイルス感染症への対応等、適切な医療提供に務められるよう、職員体制の確保に努めること。</p>
--	---	---

(4) その他、法人経営において特筆すべきこと

<p>〈事業実績等〉</p> <p>○理事会</p> <p>第2四半期で4回開催(第3回:7月31日、8月臨時:8月17日、第4回:9月25日)</p> <p>主な議題:病院理念の改定、感染症ERの設置、規程の改正、第2期中期計画骨子等</p> <p>○監事監査</p> <p>6月19日に監事監査を実施、第3四半期11月に期中監査を行い業務遂行上のリスク確認を行う予定をしている。</p>	<p>〈法人の自己分析〉</p> <p>○理事会</p> <p>新型コロナウイルス感染症に対応して、メール会議での開催やリモートでの会議参加を行い、感染対策を徹底した。</p> <p>インフルエンザ流行時に救急機能を補完できるよう12月の稼働開始を目指し、感染症ER棟を建設着工するため、8月に臨時理事会を開催し審議を行い承認を得た。</p> <p>○監事監査</p> <p>第3四半期11月に期中監査を行い、業務上のリスク確認を行う予定である。</p>	<p>〈市の確認結果〉</p> <p>■理事会では今後も重要事項に関して十分な説明と議論を尽くし、経営改善に努めること。</p>
---	---	--

<別紙>

令和2年度の第2四半期業務実績に関する 小項目評価における指標一覧（7-9月期）

令和2年10月

大津市

【令和2年度小項目業績評価における事業実績（指標の達成実績）一覧】

事業年度の実績に関する項目別での分析・確認結果

年度計画に掲げる目標指標に関する目標を達成するための取組

指標No.	大項目	分析・検証する小項目及び目標指標	H29実績	H30実績	R01実績	R01(7-9月)実績	R02目標	R02見込(7-9月)[A]	R02実績(7-9月)[B]	計画増減[B-A]	達成見込み状況[B/A]	達成☆	備考 「※」は、見込みは目標の1/4(小数点以下があるときは切捨て)
		第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置											
		1 市民病院としての役割											
		(1) 5疾病に対する医療の提供											
1		がん手術件数	603件	629件	563件	132件	650件	162件	130件	△32件	80.2%	↑	※
2		化学療法件数	2,118件	2,769件	2,037件	516件	1,900件	475件	571件	96件	120.2%	↑☆	※
3		放射線治療件数	110件	101件	112件	28件	120件	30件	24件	△6件	80.0%	↑	※
4		脳外科手術件数	251件	275件	289件	84件	333件	83件	42件	△41件	50.6%	↑	※
5		P C I実施件数	184件	151件	144件	37件	213件	53件	31件	△22件	58.5%	↑	※
		(2) 4事業に対する医療の確保											
6		救急搬送受入件数	4,097件	3,915件	3,481件	881件	4,100件	1,025件	833件	△192件	81.3%	↑	※
7		救急搬送入院患者数	1,457人	1,413人	1,358人	303人	1,450人	362人	365人	3人	100.8%	↑☆	※
8		救急ストップ時間	317時間	436時間	63時間	0時間	0時間	0時間	187時間	187時間	-	↓	
9		救急搬送比率	25.2%	24.3%	21.4%	20.7%	27.5%	27.5%	21.7%	△5.8P	78.9%	↑	
10		救急入院患者数	2,886人	2,778人	2,551人	588人	3,070人	767人	629人	△138人	82.0%	↑	※
11		小児科入院患者数	3,216人	2,748人	2,383人	665人	2,647人	661人	248人	△413人	37.5%	↑	※
12		小児科救急受入件数	2,304件	2,048件	1,919件	436件	2,400件	600件	174件	△426件	29.0%	↑	※
		(3) 感染症への対応											
		(4) 予防医療の提供											
13		人間ドック受診者数	3,452人	3,442人	3,303人	978人	3,300人	825人	0人	△825人	0%	↑	◇前年度の季節変動反映
		2 地域の病院、診療所等との機能分化及び連携強化											
		(1) 地域医療支援病院としての役割											
14		紹介率	54.0%	65.2%	71.5%	68.6%	60.0%	60.0%	70.4%	10.4P	117.3%	↑☆	
15		逆紹介率	86.2%	94.4%	104.9%	101.8%	80.0%	80.0%	96.0%	16.0P	120.0%	↑☆	
16		地域医療機関訪問回数	316回	329回	327回	75回	250回	62回	198回	136回	319.4%	↑☆	※
		(2) 地域での病院機能とその役割					定性						
		(3) 在宅医療・介護との連携強化					定性						
		(4) 関係機関との連携強化					定性						
		3 市民・患者への医療サービス											
		(1) 市民・患者の求める医療サービスの提供					定性						
		(2) 職員の接遇の質の向上					定性						
		4 医療の質の向上											
		(1) 医療の安全の徹底					定性						
		(2) 診療データ分析による医療の質と効率性の標準化					定性						
		(3) セカンドオピニオンの推進					定性						
		(4) 市民への医療の質に関する情報発信					定性						

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置													
1 経営の効率化													
2 管理体制の強化													
(1) 経営体制の強化													
(2) 内部統制の強化													
(3) コンプライアンスの徹底													
3 優れた人材の確保と意識改革													
(1) 法人職員の確保													
(2) 職員の意識改革とモチベーションの向上													
(3) 研修体制の強化													
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置													
1 単年度資金収支ゼロ以上並びに経常収支比率及び医業収支比率100パーセント以上を達成するために講じる施策													
17		医業収支比率 ※1	93.6%	99.9%	97.1%	96.5%	100%以上	-	-	-	-	↑	半期ごと確認指標
18		経常収支比率 ※2	90.0%	102.7%	100.4%	105.1%	100%以上	-	-	-	-	↑	半期ごと確認指標
(1) 収入及び収益の向上策													
19		入院診療単価	57,954円	59,053円	58,001円	58,682円	58,500円	58,500円	60,246円	1,746円	103.0%	↑☆	
20		外来診療単価	13,997円	15,294円	15,312円	15,102円	12,000円	12,000円	15,737円	3,737円	131.1%	↑☆	
21		手術件数	3,888件	3,635件	3,674件	996件	4,570件	1,142件	686件	△456件	60.1%	↑	※
22		病床稼働率	88.4%	87.9%	85.0%	81.7%	82.0%	82.0%	76.4%	△5.6P	93.2%	↑	
23		入院患者数	126,868人	126,084人	120,478人	28,989人	133,225人	33,306人	27,633人	△5,673人	83.0%	↑	※
24		外来患者数	218,401人	210,287人	198,409人	50,192人	228,420人	57,105人	43,805人	△13,300人	76.7%	↑	※
25		平均在院日数	12.6日	12.6日	13.1日	12.7日	11.0日	11.0日	13.6日	2.6日	123.6%	↓	
26		DPCⅡ期間以内患者割合	64.5%	58.7%	57.9%	58.1%	70.0%	70.0%	55.6%	△14.4P	79.4%	↑	
27		新入院患者数	9,879人	9,293人	8,533人	2,125人	10,952人	2,738人	1,904人	△834人	69.5%	↑	※
28		ICU稼働率	114.6%	114.4%	107.7%	99.9%	100%以上	100%以上	110.6%	10.6P	110.6%	↑☆	
(2) 支出及び費用の削減策													
29		人件費比率（職員給与費比率）	57.7%	54.7%	57.7%	57.8%	55.0%以下	-	-	-	-	↓	半期ごと確認指標
30		材料費比率	22.9%	23.0%	22.9%	23.1%	20.0%	-	-	-	-	↓	半期ごと確認指標
31		後発医薬品指数	89.3%	91.6%	94.0%	92.9%	80%以上	-	-	-	-	↑	半期ごと確認指標
32		委託費比率	11.0%	11.7%	12.1%	12.1%	11.0%	-	-	-	-	↓	半期ごと確認指標
2 運営費負担金													
3 計画期間内の収支見通し													
第5 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置													
(1) 大津市民病院附属看護専門学校の在り方について													
(2) 介護老人保健施設ケアセンターおおつの在り方について													

指標（数値目標）を置く項目数 26項目 …… うち 年度目標を達成した項目数 8項目

注1：達成欄の矢印（↑↓）は達成の方向（↑：100%以上または目標値以上を目指す。 ↓：100%以下または目標値以下を目指す。）

注2：単位のうち「P」はポイント

令和元年度末閉校
平成29年度末事業
廃止